



▲白石村合併を伝える当時の新聞。合併により札幌市の農家戸数は倍増し、生産緑地面積は3倍になった。記事の見出しは、当時の食糧難の世相も表れていて興味深い。写真は黒ずんでいてはつきり見えないが、合併記念に走った花バス(下写真参考)が写っている【北海道新聞 昭和25年7月2日】

地区は、行政サービスの低下と農業の将来に対する不安が強く、現状を維持すべしと合併には反対であった。

東へ移動していく境界線

一旦は上白石地区の札幌市編入を村議会でも可決したが、その後、米里地区の住民が署名を添えて編入の陳情を行った。すると横町（現在の東札幌周辺）の住民が不安を訴え編入を働き掛ける。二十五年二月になると、札幌市議会に設置された委員会が、望月寒川と月寒川下流を結ぶラインを境界とすることで意見がまとまり、白石村に通告してきた。しかし、村議員協議会で

は、さらに東の月寒川上流と中央幹線を結ぶラインを境界とした案が決定され、札幌市に提示した。すると、残される地区のみで村を維持できるかと危機感を抱いた厚別地区の住民から、合併するなら全村でという陳情が出されるようになる。

全村合併で決議

当初、札幌市では定山溪鉄道沿線の札幌側だけが欲しかったようである。しかし、三月になると全村合併の動きが

加速していく。札幌市の高田市長は、「満場一致なら全村合併でも構わない」という方針を打ち出した。一方、これまで態度を明確にしてこなかった白石村の伊藤村長も、全村合併を支持し調整に乗り出した。

こうして白石村は、産業・経済・文化の機会均等や農村行政の強化拡充などを求めた八項目の付帯決議を付すことを三月下旬の臨時村議会で決定し、札幌市はその付帯決議を覚書にしたいと回答。四月二十二日に同時に開催された村議会と市議会において、全村合併がそれぞれ満場一致で可決されたのである。

合併その後

白石村の合併は、結果的に約半年で結論を出したことになる。当時、「全国にもまれなスピード合併」とか「スムーズな合併」、中には「これといった動機もなしに合併」と評されたが、村議会や村民の間では、数えきれないくらいの審議や討議が重ねられ、陳情も相当数に上った。まさに、村民が揺れた激動の半年間であったに違いない。全村合併の所信表明をさせまいと、反対派住民が前夜から

村長宅に押し寄せて朝まで粘ったたり、厚別地区だけで村をつくらうと村長候補まで現れたりしたこともあったという。しかし最終的には、村としての意志は一つにまとまったのである。

合併の調印は、七月一日に行われた。そのちょうど一カ月後に札幌市は数十年来という大豪雨に見舞われ、旧白石村は大きな被害を受けた。この時、札幌市が災害復旧に全力を尽くしたため、住民らは合併して良かったと痛感

したという。そして昭和三十年、旧白石村の学校や道路、河川、橋などの基盤整備が急速に進む中、札幌市と篠路村、琴似村が札幌市と全村合併を果たすのである。

◆写真提供 札幌市写真ライブラリー

◆参考文献 札幌郡白石村勢要覧、札幌市史、新札幌市史、白石発展百年史、弘報さっぽろ（現広報さっぽろ）、厚別開基百年史



▲昭和25年7月1日の合併記念式典は、午前11時から行われたが、これと同時に花バスに仕立てた市営バス4台が、札幌市内の各小学校の児童代表60人を乗せて出発。バスは白石村に到着し、同村の児童と交歓会で交流した後、共にバスに便乗して札幌市内を回った。写真は札幌市役所前を走る花バス。この日は、豊平川河畔で『白石村合併』の文字を入れた仕掛け花火も披露された